

第1回：イントロダクション：学ぶということ

- ・ 動機がすべて
 - 履修条件を(少し)厳しくした理由。
- ・ 「幸福」と「楽しいこと」は、似て非なるもの
 - 「幸福な人生」は「楽な人生」と似て非なるもの。最も厳しい人間関係、最も妥協のない生き方、最も単純な役割、最も純粋な愛、最も辛い仕事・・・は「楽な人生」ではないかもしれないが、「楽しい人生」を送るための近道かも知れない。
 - 多くの人は、好きなことと楽なことを混同している ▶ 楽なことの中から好きなことを探しても見つからない ▶ どんなに辛くても苦にならないこと、があなたの好きなことではないか？
 - 授業は楽しいとは限らない。しかし、意義があり、幸福につながるものにしたい。
- ・ 間違える
 - バックミラーとフロントガラス ▶ 「大学で学んだこと(バックミラー)は何も役に立たない」という人がいるが、当然である ▶ 大学に限らず、社会は、(学生時代に)学んだことで仕事が成り立つほど、甘くない ▶ 大学は「学び方(フロントガラス)を学ぶ」場所である。
 - 「学び方を学ぶ」とは、知らない分野に飛び込んで成果を上げること ▶ 永遠の素人として生きるということ ▶ 残りの人生で無限の学習が可能になる
 - 正しい判断は、経験から導かれる。深い経験は多くの間違いを通じて積み重ねられる。多くの間違いは、未知のことに挑戦することによって生まれる。未知の分野は無知の分野である。今日知らないことは恥ではない、明日知らないでいることは、人生の選択である。
 - 知識を得るのではなく、考え方を学ぶ ▶ 成果を上げることよりも、失敗を恐れない心を鍛える
 - 「考えること」、「自分の言葉で語ること」、「意見を恐れずに口にすること」、「自分の意見を行動に移すこと」
- ・ 疑う
 - 講義の内容を疑うべき、講義の内容が「正しい」と考えないように。
 - 権威を疑う ▶ 事実として、過去の常識の多くは誤りである ▶ 逆に、権威の目的は、ああなたにあなたの頭で考えさせないことにある。
 - あなただったらどうする？あなただったらどう考える？常識が間違っていたとしたら？
 - 間違っていようといまいと、自分の結論を出しながら進む(人生と同じ)
- ・ 質問する、そしてまた間違える
 - 殆どの学生は、何を学ぶかを知っている、一部の学生はどのように学ぶかもしっている、しかし、なぜ学ぶかを深く考えるものは少数である。
 - あなたが「何を」学ぶかよりも、「なぜ」学ぶかの方がはるかに重要ではないか？

・ 自分の(心が)学びたいことを学ぶ:

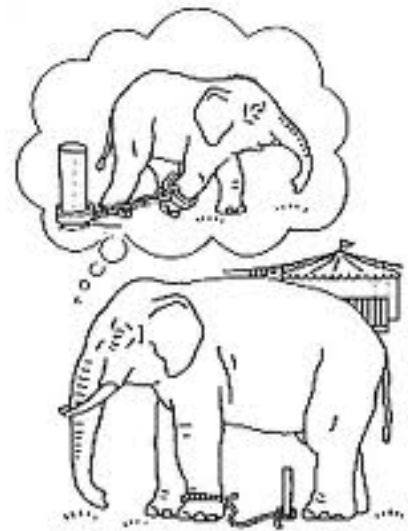
- 「100人の村」で大学生はたった一人、大人を含め世界の99人がうらやむ存在 ▶ 単位(モノ・成果)のために勉強するべきではない ▶ 勉強の最大の報酬は単位(モノ)ではない、学ぶということ(心)そのものにある ▶ 単位のために勉強をはじめた瞬間に、「しなければならないこと」になる。
- 心から好きなことでなければ成功しない、しかし、好きなことをいつまでも探すだけでは生産性は生まれない ▶ 好きなことを見つからなければ、今やることを好きになる ▶ 好きになれなければ、好きになる方法を考える ▶ 諦めずに探し続ける。
- 授業がつまらないのは、多分貴方のせいだけではない ▶ しかし、学びを面白くするのは貴方次第。

・ 立体的に考える

- 現実世界は「ルービックキューブ」 ▶ 立体的に考える、立体的に学ぶ
- 世界をルービックキューブ(生態系)として捉えてみる ▶ 一面だけの解を求めると、必ず他の面に影響を与える(多くの場合、新たな問題を生み出してしまう) ▶ 現実社会において、部分最適は必ずしも全体を最適化しない
- 因果関係は、複雑系の中で立体的に繋がっている
 - ◇ 911の事例
 - ◇ コザ再生のヒント
- 繰り返しの重要性 ▶ 立方体は、一つの面が複数の面と隣り合っている ▶ 立体感を捉える過程では、同じ要素が繰り返し登場する

・ 心を解き放つ

- サークスの子象: 子象が杭に鎖でつながれると、始めは命を懸けて逃げようともがくが、そのうち自由になることが不可能だと諦める ▶ 一度逃げることを諦めた象は、その後どんなに大きな体に育っても、自分の力を発揮する意思を失う。
- 殆どの人(大人象)は、そこに(自分が選択可能な)選択肢が存在するという可能性すら考えもしない。
- 制約とは、「子象にとって」の制約に過ぎない ▶ 子象にとっての制約を一生の制約として生きるか? 制約を乗り越えて大人象に成長を遂げるか?
 - ◇ 「杭」は本当の制約ではない、制約はそれを制約と認める、あなたの心の中(世界観)にある。
 - ◇ 誰にとっても、乗り越えられない試練(杭)は与えられない ▶ 乗り越えられないと考えた瞬間、それが現実になる。
 - ◇ 自分にとっての「杭」とは何だろう? 人のせいにする気持ち? ▶ 自分の人生の責任を取ることで、杭を引き抜く。



私の全講義に共通する目的 ▶ 沖縄再生

- ・ あなたは明日の沖縄をどうするか？
 - 講義の目的 ▶ 沖縄再生のための、飛躍的、合理的、科学的な事業計画の構想と検証
 - ◇ 私は大学時代、先生に目的を問い正してゼミから破門された経験があるが、その考え方は今も同じ ▶ おもしろいだけの学問は意味がない、学問は実行してこそ意味がある、学問は社会を良くするためにある ▶ そして、あなたとあなたの大切な人の人生をよりよいものにするためにある
 - 私が定義する観光学とは、地域(沖縄)再生学である
 - ◇ 産業(観光収入)としての観光、質としての観光、雇用としての観光。
 - ◇ 一般的な観光学の講義とは異なる ▶ 観光に関する知識を学ぶ機会ではない ▶ 沖縄の将来に寄与する人材になるための行動学である。
 - 地域再生とは、自立経済、豊かな生活(収入と時間)、共同体 ▶ これらを実現することが一義
 - ◇ その方法として、沖縄においては観光が最右翼、という順番(地域再生の手段として観光が相応しくない地域もある)
 - ◇ 観光をどうするか？の講義ではない。社会をどうするかが最大の問題。この順番は観光学が社会に役に立つための必然である。
 - 「国際観光入門」は国際観光についての講義ではない。沖縄を国際観光地とするために必要な要素を議論する講義である。
- ・ 地域再生の視点から観光を捉える ▶ エコだけを考えるなら、何もしない方が良く ▶ 経済効果とのバランスにおいて考える、地域・産業・社会再生論である
 - 沖縄の将来を支える観光産業は、沖縄県の経済規模4兆円のうち、波及効果を合わせて1兆円を占める(観光収入は4000億円)
 - 沖縄の現状と課題。
- ・ 観光地沖縄の持続的発展
 - 短期間(とはいえ、それが数十年継続することもある)の成功は、誰でも実現できる
 - 沖縄観光は、持続性があるだろうか？ ▶ 持続性を生むために、どうすれば良いだろう？
 - 沖縄に本物(一流)を生み出すために、何ができるか？どうするか？
- ・ 一週間の課題
 - 本日の講義について、言及されたキーワードや概念や考え方についてじっくり考え、質問を3つ書き出しなさい。可能な限りよく考えられた、本質的な質問であること。
 - その質問に、自分で答えを出して、記述してしまっても構わない。思考とは、質問と答えの繰り返しである。自分で問う質問に自分で答えを出すとき、あなたは思考している。